

高橋仁美(著)

《理学療法 NAVI》

この 30 題で呼吸理学療法に強くなる

評者 塩谷隆信

秋田大学大学院医学系研究科保健学専攻理学療法学講座

私と高橋仁美先生の出会いは秋田大学医学部保健学科(当時秋田大学医療技術短期大学部)に着任した20年前の1997年にさかのぼる。当時、日本では、呼吸リハビリテーションは始まったばかりでその認知度は低く、手探りでリハビリテーション・プログラム作成にともに取り組んだことが思い出される。仁美先生は、熱血漢であり、アイデアマンでもある。また、仁美先生の強烈な個性は万人がよく知るところであり、お酒が入るとその人格が180度の変身を遂げるのも彼が皆から慕われるゆえンである。

2005年に発表した「座ってできる COPD 体操」は彼のオリジナルである。自分の子供さんをモデルにして、簡単なステップ体操を考案したという。運動療法の普及が期待されていたが、冬期間は雪で外出がままならない秋田ではその実施は困難であった。椅子に座ったままかつDVDを見ながら簡単に楽しく行える COPD 体操は、仁美先生の究極のアイデアであり、秋田県のみならず全国における呼吸リハビリテーションの実践、普及に大いに貢献した。その後、この COPD 体操は英語論文として掲載され、同氏の医学博士論文の一部にもなった。現在、こうした COPD 体操や呼吸筋トレーニングを取り入れた低強度運動療法を中心とした在宅呼吸リハビリテーション・プログラムは全国展開しているのではないかと自負している。このような呼吸リハビリテーションの普及活動が評価され、同氏は秋田県医師会からの推薦を受けて第41回医療功労賞(県)を受賞している。

本書は、仁美先生の30年を超える理学療法士としての実臨床における豊富な経験をもとに作成された単著である。呼吸の基礎知識、呼吸アセスメント、呼吸ケアの3章から構成され、前半はエキスパート理学療法士(著者)が新人(ビギナー)理学療法士との会話形式として、実に飽きさせずに深く理解できる

内容で示されている。第1章の呼吸の基礎知識では、ともすれば難解になりがちな呼吸器系の解剖や生理学をわかりやすく解説している。第2章の呼吸アセスメントでは、呼吸の理学療法評価に関して、単なる経験からだけではなく呼吸生理学の視点から丁寧に説明している。第3章の呼吸ケアでは、酸素療法、人工呼吸において日常の実臨床で遭遇する問題点に関して具体的に解説している。さらに、近年注目されている筋肉から分泌されるマイオカインと身体活動性の関連など、呼吸リハビリテーションに関係した最新の話題を多く取り上げていることも本書の特徴である。

本書は、エキスパートとビギナー理学療法士との会話という読みやすいスタイルで記述されているが、通常は数式を駆使して記述される呼吸生理学あるいは人体解剖学書に勝るとも劣らない呼吸理学療法の内容になっていて、かつ「なるほど、そうだったのか」とふに落ちるところまで楽しく学ぶことができる。本書が、これから呼吸リハビリテーションあるいは呼吸理学療法に取り組もうと考えている若手理学療法士のみならず中堅あるいはベテラン理学療法士にも愛される呼吸リハビリテーションの入門書になってくれることを心から祈念するものである。

A5 版・252 頁
定価：本体 3,000 円＋税
医学書院刊，2017 年